

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス みらい		
○保護者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2024年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30人	(回答者数) 25人
○従業者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2024年12月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広域に渡って利用児を受け入れている。	当日の利用児を地域ごとに分けた送迎ルートを考えることで、送迎ルートの工夫を行っている。また、長時間の送迎時間にならないように調節をしている。	通所自立支援の視野を持って、利用児の自立度を高められる支援を考えていきたい。
2	児童発達支援センターと同じ建物にあることで、情報共有手段や相談体制が充実している。また、法人内に相談支援事業所があることで、切れ目なく支援が繋がっていく。	関係機関と連絡を取り合うことで、利用開始前の段階から利用児の情報を把握するように取り組んでいる。	今後も学校や併用している事業所等と積極的に連絡を取り合い、利用児の支援の質を高めていきたい。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもたちや兄弟児向けの交流機会が少ない。	利用児の行事を企画する段階から参加を呼び掛けることを前提としているが、参加が促せていない。また、地域の子どもたちとの交流や兄弟支援を目的とした直接的な行事がない。	放課後児童クラブや他の事業所との交流の機会が設けられぬか検討し、年間行事の内容を充実させていく。また、兄弟児支援を念頭にした相談支援の柔軟な対応も検討していく。
2	保護者参加行事や保護者同士が交流できる機会が少ない。	利用児の行事を企画する段階から保護者の参加を呼び掛けることを前提としている行事もあるが、参加が上手く促せていない。	行事を検討する段階から、参加が促しやすい曜日を選択したり、共働き家庭も参加しやすいような開催時間を設定したりしていく。また、保護者を中心とした茶話会や学習会の企画を年間通して複数回に分けて実施をする。
3	活動の個別化、グループ化が図りにくい。	活動室自体は、定員に対して規定の空間は確保されている。しかし、中学生以上の利用児が多い日には、運動量もあって活動室が小さく感じられることがある。また、活動室の構造上、区切ることが難しい。	活動内容に合わせて、廊下等の空間も使用している。また、他の事業所と相談をしながらホールや多目的室を活用している。